

東京都小児 COVID-19 の疫学と臨床的特徴に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年10月13日～2025年3月31日

〔研究課題〕 東京都小児 COVID-19 の疫学と臨床的特徴

〔研究目的〕 東京都内小児 COVID-19 症例の疫学、臨床データを後方視、前方視的に収集・分析し、次なる大流行、第2波に備える診療体制構築のための基礎データを得ることが目的です。

〔研究意義〕 2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢でのクラスター報告を端緒に同定された新型コロナウイルスは、coronavirus disease 2019 (COVID-19)と世界保健機構 (WHO; World Health Organization) に命名されました。WHOは3月11日にパンデミック宣言しましたが、2020年5月22日現在 COVID-19はその震源を中国から世界的に大流行をもたらしています。COVID-19における小児例は少ないとされ、中国全土では疑い例も含めて2.2%、韓国6.2%、イタリア1%、米国1.7%と報告されました。本邦においては、厚生労働省データより5月3日時点で10歳未満が246名、10代が352名で全体の4.1%でした。また東京都内においては5月22日現在5,136名中10歳未満68名、10代80名の2.9%である。COVID-19は多彩な症状を呈しますが、成人を含め半数近くが無症状で経過することも示唆され、殊に小児例では軽症例が多く報告されています。また米国の報告によるとその入院率も5.7%と低く、集中治療管理の必要性も同様に低いと報告されました。世界各国がCOVID-19の詳細情報を発信しているにも関わらず、本邦においては、その発信は極めて少ないのが現状です。特に小児に特化したデータは、陽性者数についてのみ、行政データにより把握可能ですが、その症状、重症度に関する疫学・臨床データは皆無です。

〔対象・研究方法〕 対象は、東京都内在住で年齢は20歳未満、PCR検査などでSARS-CoV-2陽性となり、医療機関に入院を要した患者です。検査方法は、暗号化したエクセルファイルを用いて、匿名化した患者情報を収集します。利用する項目は、感染経路、症状、退院基準等です。

〔研究機関名〕 東京都子ども救命センター4施設（東京大学病院、日大医学部附属板橋病院、国立成育医療研究センター病院、東京都立小児総合医療センター）がとりまとめている4ブロック所属二次小児医療施設（おおよそ1ブロック15-20施設）

〔個人情報の取り扱い〕 対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：三牧正和

研究分担者：小山隆之

所属：帝京大学医学部小児科学教室

住所：板橋区加賀2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 7083]